

## 士師記

ヨシュアはイスラエルの 民を約束の地に導いた後  
神との契約に誠実であれ律法を 守れと呼びかけました  
そうすれば他の国々に 神がどんな方かを示すことができると  
しかし士師記はヨシュアの死後  
イスラエルが律法を全く守れなかった ことについて語っています

この書の名前は この時代のイスラエルの指導者の  
呼び名から来ています イスラエルにまだ王がいなかった頃  
士師たちが民を治めていました 士師とはその当時の地域の政治  
的軍事的指導者で 部族の長のようなものでした

この書には物騒で暴力的なことが たくさん記されています  
墮落したイスラエルには良いリーダー がなく  
カナン人のようになり果てた末 の悲劇が描かれているからです  
しかしその悲惨な話から未来の 希望が生み出されるのが分かる  
ように書かれています

まず導入部分ではイスラエルが  
カナン人を完全に追い出さなかった ことによる過ちが描かれています

そして中心部分では士師たちの 墮落について書かれています  
さらにイスラエルの指導者たち が良いから普通へ  
さらに 悪いから最悪へと進んでしまう  
ようすが記されているのです

最後のセクションは非常に不穏  
で イスラエル全体の墮落が見て取れ  
ます

では各セクションを細かく見て  
いきましよう士師記は 約束の地で自分の土地を割り当て  
られた 12 部族の話から始まります ヨシュアはカナンの大きな街々  
を打ち負かしていましたが 取るべき地はたくさん残っており  
そこにはまだカナン人が住んで いたのです

1 章には イスラエルが追い出せなかった  
カナンの街々の名が並べられて います  
カナン人を追い出す目的は彼ら の道徳的な墮落や  
子どもをいけにえにするような 偶像礼拝を遠ざけるためでした  
神はイスラエルをきよく保ちたかった のですが  
それはかないませんでした

2 章ではイスラエルがカナンに近  
づき 彼らの文化や宗教的な儀式習慣  
を取り入れてしまいます ここで物語は途切れ著者はこの  
章のほとんどを割いて これから起ころうとしていることを  
要約しています イスラエルはこの時代同じパターン  
を繰り返しながら どんどん悪くなっていったのです  
彼らはカナン人のようになり 神に罪を犯しました  
それで神の許しによりカナン人に 征服されると  
イスラエルは自分たちの過ちを 悟り悔い改めました  
そこで神が 敵を倒して民を救う士師を立てる  
とその時代は平和になるのですが イスラエルはやがて再び罪を犯  
し同じことの繰り返しになるの です

このサイクルは士師記のメイン セクションのパターンになります  
主要な 6 人の士師のストーリーの中で このパターンが繰り返されます  
では最初の 3 人の士師たちに注目 しましょう

オテニエルエフデデボラです勇 敢な士師たちですが  
彼らのストーリーは血にまみれて います  
士師たちもしくは彼らを手伝った 人々は敵を倒し  
イスラエルを救いました  
次の 3 人の士師たちの話はもっと  
長く 後の代になるほど彼らの人格的な  
問題に焦点が当てられています

まずギデオンですが出だしは上々  
でした 臆病な男でしたが最後は神に信頼  
したった 300 人を率いて たいまつと壺を用い大勢のミディアン  
人を倒したのです しかし彼には執念深い性質があり

戦いの時に協力しなかったイスラエルの同胞たちを  
殺してしまいました ここから彼はおかしくなり戦利  
品の金で偶像を作ったため 彼の死後イスラエル人はこの偶像  
を拝むようになり また悪しき時代が始まったのです

次の士師エフタは丘に住むごろ つきのような人でした  
しかしイスラエルの長老たちが 困った時に彼に助けを求めます  
エフタは有能な指導者でアンモン 人との数々の戦いに勝ちました  
が イスラエルの神をまったく知らず  
カナン人の偶像と同じように考えて いました  
もし戦いに勝ったら娘を捧げる と誓っていたのです  
この痛ましい話は イスラエルがどれほど墮落して  
いたかを示しています 彼らは自分たちの神のご性質を  
忘れ果て人を殺して 偽りの神を拝むような真似をしていた  
のです

そして最後の士師サムソンは最悪  
でした 信仰のある親の元に生まれました  
が 本人は神のことなど意に介さず  
性的に放縦で 暴力的で傲慢でした  
誠実さと引き換えに 非常に残忍なやり方でペリシテ  
人から勝利を収め 最後は大量殺人という暴力の中で  
死んでいきました

ここで注目したいのは  
この書の中心部分で繰り返される パターンの中で  
肝心な時にこれらの士師たちは 神の霊によって力を与えられ  
イスラエルを救うことです 神はこのようなめちやくちやな  
人々を用いましたが だからと言って彼らの行動を肯定  
しているわけではありません

イスラエルを救うことが神の最  
重要任務でしたが それを共にするのは墮落した士  
師たちだけで 彼らを用いるしかなかったのです  
この中心セクションはどんなに ひどい状況だったかを示しています  
イスラエル人だかカナン人だかわからない ような人々が

指導者だったのですから  
最後のセクションではイスラエル  
は墮落しきっています 最後の2つの悲劇はあまりにもむ  
ごい内容なので 読むのに覚悟が必要です  
そしてこれらはこの書の終わりの ほうで4回も  
繰り返されるフレーズでくま れています

そのころイスラエルには王がなく それぞれが自分の目に良いと見える  
ことを行っていた

最初の悲劇はミカというイスラエル  
人が 自分のために宮と偶像を作りそれを  
ダン族に奪われた話です 彼らはすべて奪い取ったあとライ  
シュという平和な町を焼き払い 住人を皆殺しにしまいました  
何とも恐ろしい話です 神を忘れたイスラエルは弱肉強  
食の世界になってしまったのです この書の最後にはさらにおぞましい  
話が出てきます ショッキングな性的暴行と暴力  
が イスラエル初の内戦に発展した  
のです あまりにもひどい話ですがそれ  
こそが重要な点です これは警告なのです  
イスラエルが自滅するほどに墮落 したのは彼らを愛し  
エジプトの奴隷状態から救い出して くださった  
神から離れた結果でしたそして 今  
イスラエルは自分たち自身から 救い出される必要があるのです

この書の一番最後にも記されている このフレーズだけが  
一筋の希望ですイスラエルには **王がなく**  
このフレーズがダビデ王の家系 のルーツを語る  
ルツ記とイスラエルの王制の起源 を語る第一サムエルに繋がります  
士師記は悲劇ですがそこに価値 があります  
人間の姿を突きつけられるような 書であり  
民を救う王を送ってくださる神の 恵みの必要性を指し示しています  
これが士師記です

## 500字要約

『士師記』はヨシュアがイスラエルを約束の地に導いた後、律法を守り神との契約に忠実であれと呼びかけますが、イスラエルは律法を守れず、士師が指導者となりました。物騒で暴力的な出来事が書かれ、イスラエルは墮落し、その結果、悲劇が起こります。しかし、この悲惨な話から未来の希望が生まれることが分かります。物語ではイスラエルの過ち、士師たちの墮落、そして神の力によるイスラエルの救いが描かれています。士師たちの中でも特にギデオン、エフタ、サムソンの物語が重要ですが、彼らも欠点がありました。イスラエルのサイクルは悪化し、神の介入によって救われることが繰り返されます。この書は人間の墮落と神の救いの物語であり、イスラエルの神への忠誠を見つめ直す警告でもあります。